

保育計画成果報告書

法人名	社会福祉法人 泉湧く家
施設名	わくわく保育園
報告者（役職）	三原 明日香（保育士）
住所・連絡先	東京都豊島区池袋 4-10-2
	☎ 03-6912-7091 E-mail wakuwaku-hoikuen@izumiwaku-ie.jp

○タイトル（保育計画）

リズムを刻み、音を奏で、みんなで音楽を楽しもう

○主な助成備品

楽器（鈴、タンブリン、エッグマラカス、メロディベル、スレーベル、和太鼓 など）

1. 保育計画策定の目的

当園は平成26年11月1日に東京都豊島区に小規模保育園として開園し、平成27年4月より認可保育園として地域型保育事業を行っております。平成29年4月より一般認可保育所への移行を予定し現在は準備の真っ最中です。小さな園ではありますが、池袋という都会の地にありながら園庭のある保育園ということで保護者の方から喜ばれています。平成28年度までは「小規模保育」に加え「定期利用保育」「一時保育」の3事業を行い賑やかな毎日をご過ごす中で、手さぐりながらも『より良い保育をしたい』という思いを胸に日々奮闘を続けております。しかし、新設の保育園で豊かな保育を保証するためには、物的な不足という現状との対峙が避けられません。特に楽器類は手作りのマラカスや太鼓を用意することが精一杯です。聴力も心もぐんぐん成長する乳児期に良い音と出会わせてあげたい、たくさん楽しませてあげたいという切なる思いから楽器を使用した取り組みを計画しました。

また保育目標のひとつとして同建物内の2、3階に同法人のグループホームがある特徴を生かし異世代間交流を大切にしたい豊かな保育を目指しております。日常的な関わりの中で楽器遊びを取り入れ子どもと高齢者（グループホーム利用者）を繋ぐ切っ掛けのひとつになると良いという思いもあります。



2. 具体的な実施内容



最初の取り組みとして0～2歳児の子どもたちに音楽の面白さを伝えることが出来るように全員が集まる①誕生会で子どもたちの大好きな『はらぺこあおむし』の大型絵本を題材にし、ピアノの弾き語り後にCD音源に合わせてエッグマラカス、鈴、タンブリン、トライアングルなどの楽器を順番に職員が演奏しました。その後、楽器に興味を持った子どもたちに0歳児…エッグマラカス、1歳児…鈴、2歳児…タ

ンブリンを渡し、各々自由に音を鳴らして楽しんだり、『おもちゃのチャチャチャ』の伴奏に合わせて初めての合奏を楽しんだりしました。実際に手に取り音を鳴らすと楽器の楽しさ、面白さにすぐに引き込まれていました。翌月には12月②お楽しみ会で『きよしこのよる』『きらきら星』を保育者によるメロディベル演奏で聴き、『あわてんぼうのサンタクロース』『ジングルベル』の2曲を子どもたちも楽器を手に持ち合奏・合唱しました。

そして先日は1、2歳児の子どもたちで2階のグループホームに訪問し③異世代間の音楽交流会を行いました。感染症などで中止が続き子どもたちの気持ちが続くか心配でしたが、子どもたちは毎回の楽器練習を楽しみにしており楽器の入っている箱を見つけると「すぐやりたい」と子どもたちから言うこともありました。1歳児クラスは保育者の真似や他児と同じ音を奏で共感感覚を味わい楽しめるようにしていきました。2歳児クラスは音楽に合わせて音を鳴らすことで一体感を味わい仲間意識の芽生えを促していけるようにしました。また両クラス共通で楽器の持ち方や扱い方、片付け方についても指導して共有物を丁寧に扱う機会としての役割にも繋げていきました。



3. その成果と評価

①誕生会では職員が楽器を紹介した際に一つひとつの楽器の使い方にメリハリを付けたことによって『子どもの集中力、聞く力、感じ取る力に繋がった』『聞く側の気持ちを集中させることができた』などの評価が職員から挙がりました。実際に楽器を手にするまで「かして」「ちょうだい」と言う子どもはおらず『はらぺこあおむし』と音楽の世界に引き込まれている様子が感じ取れました。

②お楽しみ会のメロディベル演奏もよく集中して聞くことができ、普段なかなか触れることのできない楽器・音と触れる良い機会となりました。『きらきら星』は保育中に歌っていることが多く馴染みがあったので子どもたちも歌で参加することができ、楽しむことができていました。また上記の誕生会の翌月に実施したということもあり「みんなも一緒に楽器を使ってみよう」という保育者の一言で目を輝かせ、楽器を手にとると笑顔が溢れる会となりました。スレーベルを使いサンタクロースがやって来た音に見立てると“シャンシャン…”の音色を聴き、姿は見えなくてもサンタクロースが来てくれた、みんなのことを見ているとの期待に繋がると共に創造性を育むことにも繋がりました。

③異世代間の音楽交流会毎日の練習を楽しみに行い『2階のおじいちゃんおばあちゃんに見てもらおう』『一緒に楽器で遊ぼう』という目標を持って取り組むことができました。今年度の異世代間交流では『お互い気兼ねなく行き来する』ことを大切にしており、このような出し物は行っていませんでした。年度末に実施することができたので、異世代間交流のまとめの発表という形としても良いものとなりました。同じ空間で奏でる楽しさはもちろん「上手にできたね」という言葉や利用者の方から優しい眼差しで見ている経験から達成感や喜びを味わうこともできたと感じます。また2歳児クラス子どもたちが「いっしょにあそぼう」と利用者の方に楽器を渡すことで触れ合いも生まれ、利用者の方の嬉しそうな様子を伺うこともできました。



4. 今後の課題と展望

他にも夏祭りや運動会で職員からの出し物をした際に和太鼓を使用し、本物の太鼓の音、胸に響く感覚を味わうことができました。お楽しみ会の職員によるメロディベル演奏も好評で2年連続で行い、毎年の恒例となりそうです。楽器を使用した集まりは特別なものという気持ちが子どもたちの中にある様子が伺え、期待している姿を嬉しく思います。一方で“特別”という気持ちが強く行事や発表という場の他でもっと日常的に楽器に触れ合っていく機会を作っていくことが今後の課題だと感じています。先日、保育中にスナップの付いた細長いものを繋げていく手作り玩具で三角形を作っていた子どもがいました。はじめは「おにぎり」と言っていたのですが、しばらくすると繋げていないひとつを手を持ち三角形を叩き「チリン チリン」と口ずさんでいました。ひとりが始めると一緒に遊んでいた他児も同じことをし始めトライアングルに見立てた遊びをしていました。楽器と触れる



機会を持つことで単なる聴力の成長だけでなく日常の遊びにも大きく影響しているのだと実感した瞬間です。日常の保育の中でも楽器と触れる時間を増やしたり、音楽集会など楽器を主体とした会を設けたりすることによって子どもたちの音の世界を広めていき、多くの遊びや刺激に繋げていきたいと思います。

以上